

99件

まちづくりの主人公の声 意見・提言・要望などに

お便り広聴事業・平成17年度まとめ

市では、市民の皆さんとともに協働のまちづくりを進めようと、2月から「お便り広聴」を実施しています。平成17年度には、まちづくりの主人公の声として、44人の方から99件の意見や提言、要望などが寄せられました。市ではすでに、回答が必要な提言27件について、提言者に回答しています。ここでは、17年度のまとめをお知らせするほか、寄せられた提言と回答の一部を紹介します。なお、お便り広聴の用紙は、広報2月2日号とともに、各世帯に1枚ずつ配布しています。

●平成17年度お便り広聴・項目別提言数

道路	市政	庁舎建設	まちづくり	観光	商工業
18	15	7	7	6	5
農林業	公共交通	子育て支援	生涯学習	学校教育	広聴広報
5	4	4	4	4	3
医療	高齢者福祉	防犯	税金	障害者福祉	選挙
3	3	2	2	1	1
情報化	環境衛生	住環境	保健	議会	合計
1	1	1	1	1	99

声

西根バイパス 工事進展状況

(西根地区・女性)
西根バイパスの工事は、どのぐらい進展しているか。

答

西根バイパスは、県が工事する路線で、大更松川地区から平館鷺の巣地区まで総延



一部区間で利用が開始されている西根バイパス

長8.9kmの計画になっています。現在、第1期工区として、大更松川地区の東北自動車道西根インターチェンジ信号機付近の国道282号から、大更北村地区の一般県道岩手大更線まで工事中です。大更五百森地区から一般県道岩手大更線までの2.3kmは一部利用できるようにになりました。また、アクセス道の一般県道岩手大更線から市立図書館の脇を通り、市役所前の国道に至る区間を、平成21年春に暫定利用開始する予定です。大更北村地区から終点までの第2期工区の工事については、第1期工区の完了めどがついてから、詳細設計に入ることになっています。この路線の線形を大まかに説明します。市総合運動公園

声

市内循環する バス運行求む

(松尾地区・女性)

市内の病院を循環するバスの運行を検討してほしい。車を持たないので、冬期間に生活必需品を購入するため週に1回でいいので、バスを運行してほしい。

答

現在、市の患者輸送バスは、合併前の旧町村が実施していたコースを運行しています。今後、提言のあった「市内循環バス」については、新市建設計画・公共交通プロジェクト事業により、患者輸送バスやスクールバス、廃止代替バスの一体化など、新公共交通体系の構築に向け、検討を行います。

系

具体的には新公共交通システムでは、患者だけや小・中学生だけに乗せるといった枠を取り払い、買い物で利用する人などを含む、誰もが利用できる仕組みを作ろうとするものです。

このシステムを構築するためには規制があり、法的な手続きが必要になります。また、循環コースの設定や料金体系の調整などに時間が必要ですが、現在運行している路線バスや鉄道などの公共交通機関と競合しないようにしなければなりません。

市では、合併の効果として、早期に新公共交通システムの



現在、各地区を巡回運行している患者輸送バス

構築を図り、市民の利便性を確保するよう検討しています。もう少ししばらく時間をいただきますよう、お願いいたします。

(企画総務部総合政策課)

声

堆肥センター 整備し供給を

(西根地区・男性)
私が住んでいる地区は、ホウレンソウ栽培が盛んな地域です。しかし、栽培農家の高齢化が進み、収量、収益が減少の一途をたどっています。

収量の確保、増益のためには、坪当たりの収量を上げなければなりません。良い土作りが重要になります。そのため、堆肥センターを作ってもらい、農家に供給してほしい。

答

ホウレンソウ栽培は土作りが大切であり、そのため

倍に増やしたほか、施設を改築し乳児保育の実施と1、2歳児の受け入れを拡大したところもあり、保育所受け入れ児童の拡充と保育環境の改善を図っています。

市では、多様な保育需要に対応するため、今後、入所児童数と児童年齢構成の推移を踏まえながら、各保育所の定員を見直し、市内保育所の入所待機児童を解消します。

(生活福祉部児童福祉課)



外で元気に遊ぶ寄木保育園の子どもたち

市では畜産農家と耕種農家が連携する資源循環型農業を推進しています。また、家畜排泄物の法的施行により、個々の畜産農家が堆肥舎を設置したほか、共同で処理する堆肥センターを松尾地区に2カ所、安



松尾・谷地中地区に整備している堆肥センター

代地区に1カ所整備しました。これにより、堆肥生産が飛躍的に増大することから、この堆肥を耕種農家などで利用する取り組みをしているところです。盛岡地区では畜産農家に対して、良質堆肥生産技術情報の提供、堆肥生産研修会の開催を行っています。市内でも年々、堆肥販売に取り組み畜産農家が増えており、耕種農家から家庭菜園に至るまで幅広く堆肥供給が行われています。西根地区でも、畜産農家と耕種農家の連携を進めています。堆肥センターの整備については、需要と供給の状況を見ながら、幅広く検討したいと思っております。

(産業建設部農林振興課)

声

保育施設拡大 子育て支援を

(西根地区・女性)

保育所入所手続きの書類をそろえて申請したが、保育所の定員を超えていたので、子どもが入所できずにいる。

市の予算の関係もあると思うが、保育施設の規模拡大などを安心して子どもを産み育てられる環境づくりをお願いしたい。

答

保育所に希望する 年齢の空きがない 場合は、入所を

待っていた、だくことになりま

現在、市内保育所の入所希望者は3歳児未満が増加していることから、18年度から市内の私立保育園では定員を1.5